

CONTENTS

前期企画展 箕作秋坪と久原洪哉	2
第78回 文化講演会	3
特集 新館15年のあゆみ	4・5
夏休み教室開催	6
NEWS FILE / 友の会の活動	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 36

September, 2025



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

華岡（青洲の4男鹿城が預かる大坂分塾合水堂）門人録に「文政4年（1821）2月8日英田郡福本村山本鼎」とある人物を追って、美作市福本を調査したのは20年以上昔のことです。山本家（白堀の家）は福本の交差点を県道414号線に入った辺りで見つかり、近くの墓所に建つ「仁山院寶鼎玉鉞居士」と刻まれた墓石の碑銘に「山本鼎」を確認できました。鼎は大坂で修学後帰郷し、20数年後の弘化4年（1847）3月16日に51歳で没しています。当主山本彰氏は岡山市内で開業医をされていたのですが、「先祖が華岡門人だったことを初めて知って驚いた」とのことでした。

文・写真：名誉館長 下山純正



前期企画展

箕作秋坪と久原洪哉

■会期…令和7年3月8日(土)～9月21日(日)

真庭市下砦部にあつた庶民向けの学校「教諭所」で学監(副責任者)をしていた菊池文理の二男として生まれた秋坪は、津山藩医の箕作阮甫のもとで蘭学を学びました。そこで阮甫に見込まれた秋坪は、嘉永4年(1851)に阮甫の三女つねと結婚し、養子となります。

嘉永6年(1853)と翌年の嘉永7年、ペリーが来航した際には津山藩の命により、両度とも艦隊の様子を探るため秋坪は現地に派遣されました。再来航の際には、秋坪は来航したアメリカ人と接触し、名刺とタバコを手に入れています。また、文久元年(1861)幕府がヨーロッパへ使節団を派遣した際には随行員に選ばれるなど、幕末の外交交渉に活躍します。明治維新後は東京に英学塾である三又学舎を開き後進の指導を行い、森有礼の主導で作られた学術結社である明六社に参加するなど文明開化に尽くしました。

一方、鏡野町百谷の医師、難波周造の長男として生まれた洪哉も津山藩医の久原玄順の養子となり久原家を継ぎ、津山藩医を勤めることとなりました。洪哉は久原家を継ぐと大坂で華岡流外科を修業し、久原家の家業である外科を学びます。そして明治3年(1870)には津山藩主 松平慶倫夫人の乳がんの摘出手術を成功させるなど活躍をしています。

奇しくもこの二人は文政8年(1825)生まれということですが、今年が生誕200年にあたります。今回の企画展は同年代とともに幕末維新期に活躍したこの二人の業績について紹介しました。

来館した皆さまは、同時代に生きた二人の業績に思いを馳せて、じっくりと見入っておられました。



鈴木 直志 先生

第78回 文化講演会

「箕作阮甫と西洋兵学」

講師 中央大学文学部教授 鈴木 直志 先生

4月12日（土）、中央大学文学部教授の鈴木直志先生を講師にお招きし、第78回文化講演会を開催しました。今回の講演会では「箕作阮甫と西洋兵学」と題して19世紀前半のヨーロッパで当時最新の戦術として用いられていた「三兵戦術」が日本にどのように受容されたのかについてお話しいただきました。

三兵戦術とは、歩兵・騎兵・砲兵を互いに密接に組み合わせた戦術で、16世紀に基礎づけられ、19世紀半ばまではヨーロッパでスタンダードな戦術でした。箕作阮甫が活動した幕末の日本は高まる外圧や異国の脅威に直面した時代であり、海防の強化と軍事の近代化が進められる過程において、三兵戦術を含む西洋兵学が日本に受容されていたそうです。洋学の軍事科学化が進む中、阮甫は三兵戦術の翻訳書である『ホン・ブランド・タクチーキ譯本』を著しました。

三兵戦術は、まだライフル（施条銃）が開発される以前のマスケット（滑腔銃）と呼ばれる射程距離が短く、命中率が低い銃で一斉射撃を行っていた時代に用いられた戦術でしたが、1850年代以降、ヨーロッパで火器が発達しライフルが普及していく中で、急速に顧みられなくなっていくそうです。

ヨーロッパの軍事史に踏み込みながら、幕末の西洋兵学受容について丁寧に説明してくださった鈴木先生のご講義を、会場にいた皆さんは熱心に聞き入っておられました。

洋学資料館 新館15年のあゆみ

新館でのリニューアルオープンから、洋学資料館は今年3月ではや15年。3年後の令和10年には、いよいよ開館50周年の大きな節目を迎えます。新たな一步を踏み出す前に、これまでの歩みを振り返るこの企画、機関誌No.26で紹介済みの新館6～10年に続き、今回は11～15年をまとめました。

令和2年度

4・1	下山純正元館長、名誉館長に就任
4・18	新型コロナウイルス流行に伴う臨時休館
7・4	企画展「箕作博士の水族館」
10・10	新館開館10周年記念企画展「シーボルトと岡山の洋学者たち」
11・8	友の会 イベント「拓本を楽しむ」



▲名誉館長辞令交付式

令和3年度

11・28	企画展「仁木永祐と 初山麓をめぐる人々」
12・6	第33回友の会史跡見学会 「津山城下の史跡を訪ねて（城東編）」
1・31	オムニバス講演会 「病に向き合う医師たち」
3・13	企画展「資料が秘めた物語Ⅲ 「洋学者がみた西洋文化」
5・16	新型コロナウイルス流行に伴う臨時休館
7・3	企画展「あれも葉 これも葉」
7・31	親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室
8・1	トークイベント 「「洋学の糸が紡いだ」ヒンデローペンの広がり」オランダ伝統的装飾技法作家 永江絹子先生を囲んで」
8・7	江戸時代の化学書からの再現実験教室
8・20	新型コロナウイルス流行に伴う臨時休館
10・9	友の会 創立40周年記念事業・ 箕作家墓所整備事業 案内石柱の除幕・贈呈式

令和4年度

11・18	「蘭学・洋学 三津同盟」締結調印式 企画展「生涯2000年記念 宇田川興斎」
11・27	第34回友の会史跡見学会 「津山城下の史跡を訪ねて（城下編）」
12・5	オムニバス講演会 「洋学あれこれPartⅢ」
1・30	企画展「津山洋学の名品展」
3・19	
4・30	第75回文化講演会・友の会総会 「日本石鹼製造事始めー日本における 石鹼製造業の勃興と発展ー」 花王株式会社 花王ミュージアム館長 引地 聰先生
7・30	親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室
7・31	



▲「蘭学・洋学 三津同盟」締結調印式

5・27	4・22	3・11 (7・30)	1・29	12・3 (2・19)	10・29	10・15 (11・13)	9・30	8・27	8・11	8・6
第40回友の会研修バス旅行 「牧野博士のふるさと土佐を訪ねて」	第76回文化講演会・友の会総会 「出島オランダ商館の輸入砂糖について」 北九州市立大学大学院社会システム研究科 非常勤講師・前研究科長 八百啓介 先生	企画展「資料が秘めた物語Ⅳ」	企画展「鶴田藩医能勢家資料展」 「維新の荒波を越えた漢方医の生涯」 「人頭模型の作者は津山藩内の人物だった!」 「細工職人鈴木常八の足跡を追って」	企画展「蘭学者が見た世界」 「算作省吾と新製輿地全図」	第35回友の会史跡見学会 「津山城下の史跡を訪ねて（城西編）」	友の会創立40周年記念誌 『40年のあゆみ』刊行	企画展「蘭学・洋学の洋学者たち」 「津山・中津・津和野の洋学者たち」 東洋大学教授 岩下哲典 先生 早稲田大学大学院 佐々木千恵氏 東洋大学大学院 小林 哲也氏 佛教大学大学院 相澤みのり氏	「からだのしくみを学ぼう!」(リモート開催) 近世・幕末維新期「海洋国家」と「異国」 研究会 公開研究大会 (上廣倫理財団共催)	「19世紀を中心とした」 「軍事的学知をめぐる人と書物の交錯」 武蔵野大学教養教育リサーチセンター・ 湘南鎌倉医療大学非常勤講師 竹村厚士 先生 中央大学教授 鈴木直志 先生 早稲田大学教授 谷口眞子 先生	江戸時代の化学書からの再現実験教室 公開研究会
3・9 (9・8)	1・28	12・3	11・4	10・21	10・7 (2・18)	8・26	8・5 (9・24)	7・30	7・29	7・29
企画展「資料が秘めた物語Ⅴ」	オムニバス講演会 「新製輿地全図から作られた地球儀とは?」 「明石市に残る地球儀とその作者について」	企画展「資料が秘めた物語Ⅳ」	山本博文先生追悼講演シンポジウム (津山郷土博物館との共同開催)	友の会 創立40周年記念祝賀会 阿蘭陀料理の夕べ Part9 「真庭市南部の史跡を訪ねて」	企画展「結成150周年記念」 文明開化と明六社 「津山・津和野・中津の思想家たち」	企画展「結成150周年記念」 文明開化と明六社 「津山・津和野・中津の思想家たち」	親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室 むかしの学者もやった化学実験教室	親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室 むかしの学者もやった化学実験教室	親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室 むかしの学者もやった化学実験教室	親子でヒンデローペンの作品づくり ヒンデローペン絵付け体験教室 むかしの学者もやった化学実験教室



▲蘭学・洋学 三津同盟締結記念
津山・津和野・中津巡回企画展

▼友の会創立 40 周年記念祝賀会
阿蘭陀料理の夕べ Part9



3・19	3・8 (9・21)	1・26	12・8	11・23 (2・16)	9・28 (11・4)	8・10	8・3	7・28	7・27	6・1	4・13
新館開館から15年	企画展「洋学あれこれ PartⅣ」 「算作秋坪と久原洪哉」	企画展「生誕200年記念」 「算作秋坪と久原洪哉」	第37回友の会史跡見学会 「旧柵原・美作町の洋学史跡を訪ねて」	企画展「津山藩最後の藩医 芳村杏齋」	企画展「中津藩と蘭学の夜明け」	人体のしくみやたらきについて学ぼう!	むかしの学者もやった化学実験教室	ヒンデローペン絵付け体験教室	親子でヒンデローペンの作品づくり	「港町室津と鶴の宿場を訪ねて」 第41回友の会研修バス旅行 早稲田大学文学部教授 谷口眞子 先生	第77回文化講演会・友の会総会 「『近代の啓蒙』と明治日本の国家構想」 「西周と津田真道」 早稲田大学文学部教授 谷口眞子 先生

令和6年度

洋学資料館の夏休み教室開催!!

□ ヒンデローペンの作品づくり

K i n u k o ヒンダローペン
スタジオの永江先生を講師にお招きし、7月26日(土)に小学生の親子向け、27日(日)には一般向けに、オランダの伝統工芸であるヒンデローペンの作品作りのワークショップを開催しました。

今年の絵付け体験はドイツ製のテラコッタです。ブルーベリーやポピーなどの植物の下絵が描かれており、そこに赤や青、紫など思い思いの色をのせていきます。

毎年この教室を楽しみに常連で参加されている方も多く、先生に質問しながら、真剣に取り組まれています。



□ おかしの学者もやった化学実験

8月2日(土)に開催した化学実験教室は、津山藩医の宇田川榕菴が著した日本初の本格的な化学書である『含密開宗』に掲載されている実験を再現するというイベントです。

1つ目は、津山高専の廣木先生と同校の学生による「含密開宗と『べらぼう』なさし絵」と題した実験です。はじめに、化学書に不可欠のさし絵に注目し、その細密さをお話いただきました。その後、硝酸銀と銅板を用いて「銀樹」を作ったり、ローズマリーから精油を蒸留したりしました。

2つ目は津山高校の化学部による「宇田川榕菴と学ぶ『隠顕インクの世界』」と題した実験です。画用紙に重曹を溶かした透明の液で絵を描き、その上からブルーベリーの汁にエタノールを加えたものを塗ると、隠れていた絵が浮き上がるというものでした。

榕菴も「試す」ことを大切にし、顕微鏡などを用いて観察していた

というお話があり、化学の楽しさに触れる機会となりました。高校生もすっかりサポートしてくださり、安全に実験を終了することができました。



□ 人体のしくみや

はたらきについて学ぼう!

8月9日(土)は、川崎医科大学現代医学教育博物館より4名の講師をお迎えし、「人体のしくみやはたらきについて学ぼう!」を開催しました。

まず、当館学芸員が『解体新書』についての説明をした後、講師の先生方から、人体の臓器それぞれの機能について解説がありました。

した。

そしていよいよワークショップです。臓器の実物標本をスケッチします。それぞれの形もさることながら、色も丁寧に観察しました。最後は、紙エプロンに臓器のシールを貼ることで、臓器の位置や大きさなどを確認します。お母さん・お父さんに手伝ってもらいながら、手のひらよりも大きなシールを慎重に貼っていき、完成後はそのエプロンを身に付けて、みんなで記念撮影して終了となりました。



NEWS
FILE

宇田川榕菴ゆかりの

オペレッタがやってきた！

6月22日（日）に津山文化センター大ホールで、「榕菴と西洋音楽」と題した公演が行われました。

公演の第2部で披露されたオペレッタ「二人の獵師と乳売り娘」は、津山藩医宇田川榕菴ゆかりの演劇として知られます。榕菴は、文政3年（1820）に長崎の出島で、オランダ人商人らによって日本初の西洋演劇として上演された際、この台本を入手しており、和訳したものと蘭語原本を筆写したものが、早稲田大学図書館に



残っています。

この公演に合わせて、洋学資料館のスポット展示コーナーでは、「水田昌二郎が研究した 榕菴のオペレッタ」と題した展示を行いました。洋学研究者の水田昌二郎は、榕菴が書き残したオペレッタを研究するとともに、再現劇という形で、戦後まもなくの昭和21年（1946）11月に津山で初上演しました。この展示を通じて、2人の学者が残したオペレッタ研究の足跡をたどっていただく機会になりましたら幸いです。

会
の
動
友
の
活

第42回友の会研修バス旅行

石州 津和野を訪ねて

6月1日（日）、友の会研修バス旅行が開催されました。今回は、「蘭学・洋学 三津同盟」の締結先の一つである島根県津和野町を訪ねました。津和野町の中心部は重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、赤瓦の屋根と趣ある町並みがとても美しい山間の城下町です。見学先は津和野郷土館・日本遺産センター・安野光雅美術館・西旧宅・森鷗外記念館です。

途中では町並み散策の時間もあり、藩校の養老館やカトリック



西周旧宅で記念撮影



養老館前の町並み散策

ク教会も外から見学することができました。それでも1日ではとても回りきれないほど、津和野には文化財・史跡が数多く残されています。

参加された皆さんも「山陰の小京都」と呼ばれる由来を実感できたのではないのでしょうか。日帰りには少し長旅でしたが、現地ではそれぞれ詳しく解説していただき、たいへん充実した研修旅行になりました。ご案内いただきました日本遺産センターの清水徳秀さん、安野光雅美術館の福原京子さん、森鷗外記念館の大山優子さん、郷土館の小杉紗友美さん、そして参加者の皆さん、ありがとうございました。

INFORMATION

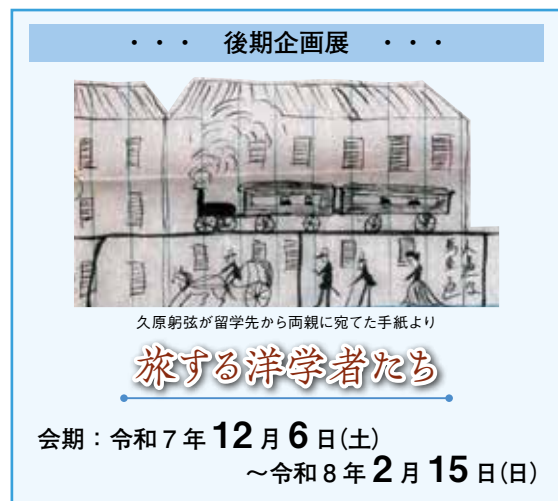
令和7年度の催し物(予定)

企画展

4月	8 前期企画展「箕作秋坪と久原洪哉」 12 第78回文化講演会 12 友の会総会 (休館日：14・21・28・30日)	3/8～
5月	(休館日：7・8・12・19・26日)	生涯200年記念 箕作秋坪と久原洪哉
6月	1 友の会研修バス旅行 (休館日：2・9・16・23・30日)	
7月	26 親子でヒンデローペンの作品づくり 27 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：7・14・22・23・28日)	
8月	2 むかしの学者もやった化学実験 9 人体のしくみとはたらきについて学ぼう！ (休館日：4・12・13・18・25日)	
9月	(休館日：1・8・16・17・22・24・29日)	～9/21
10月	11 秋季企画展「幕末の津和野藩と洋学」 (休館日：6・14・15・20・27日)	10/11～ 幕末の 津和野の 藩と 洋学と ～11/16
11月	友の会史跡見学会 (休館日：4・5・10・17・25・26日)	
12月	6 後期企画展「旅する洋学者たち」 6 交通史学会 津山大会誘致開催 (休館日：1・8・15・22・29～31日)	12/6～ 旅する 洋学者たち ～2/15
1月	25 オムニバス講演会 (休館日：1～3・5・13・14・19・26日)	
2月	(休館日：2・9・12・16・24・25日)	
3月	(休館日：2・9・16・23・24日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

※催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。



ご利用案内

- 開館時間／9：00～17：00（入館は16：30まで）
- 休館日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
祝祭日の翌日・年末年始（12月29日～1月3日）

■入館料／

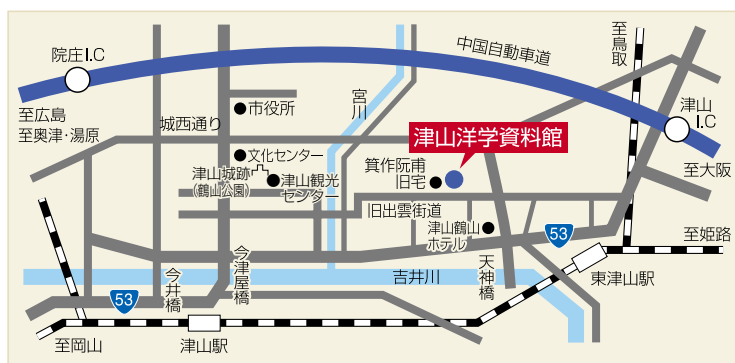
一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※（ ）内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <https://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分